

# 外国語活動部会

## 研究主題 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら コミュニケーションを図ろうとする児童の育成

### 1 主題について

外国語活動が全面実施となって3年目となる。そこで、外国語活動の目標を踏まえて、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成を目指し、本テーマを設定した。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月13日	第2回総合研究会 授業研究会（扇田小学校）
10月 3日	交流授業（扇田小学校）	10月15日	指導案検討会

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成25年11月13日（水）
- ・単元名 5年 Hi, friends ! 1  
Lesson 5 What's this?
- ・会 場 扇田小学校
- ・授業者 HRT 伊藤 久美子  
支援員 長崎 奈緒子  
すずかけHRT 山田 陽子

#### ① 授業者から

- ・日本語の表現を苦手とする子ども、全員が「英語が好き」と答えている。教師自身もうまく使えないが、健康観察を英語で行ったり、クラスルームイングリッシュをできるだけ取り入れたりしようと考えている。
- ・本時は、コミュニケーション能力が身に付くようにと考えて計画をした。
- ・英語を使った活動にしよう意識して今回で4回目の授業になる。支援員に英語で話すようお願いし、それに対してHRTが子どもたちに日本語で説明するための時間がかかり、授業が伸びてしまったのかもしれない。



【TTでの楽しいやりとり】

#### ② 協議

- ・本時のねらう表現「What's this?」を繰り返し使う学習過程になっていて、子どもたちもしっかりと覚えることができていた。
- ・「ハッピーカードゲーム」では、デモンストレーションの内容が子どもたちに伝わり、ずっと活動に入ることができていた。また、ゲームが早く終わったり、遅くなったりして差があったが、カードゲームでコミュニケーションを取りながら待っているところが見られた。
- ・カードの枚数がたくさんあったものの、子どもたちは正しく言うことができていて素晴らしいと思った。

- ・導入場面で、様々な人とあいさつを交わしているところがよかった。
- ・チャンツでは子どもたちが音楽に合わせておどる姿が見られ、子どもらしくとてもよかった。
- ・コミュニケーション能力を高めるために、「Today's goal」に「Eye contact」「Nice smile」「Clear voice」「Good action」などを入れるとよかった。それを振り返りの観点にすることもできる。
- ・「ハッピーカードゲーム」は、**ペア**で繰り返し練習し、「ブラックボックスクイズ」は**グループ**での会話、そして「テルミークイズ」は**個**で話すという活動の形態が工夫されていた。
- ・「ブラックボックス」にどのようなものを入れたらよいか考えた。子どもたちがヒントを考えにくいものもあった。ヒントは先にジェスチャーでもよかったのでは。
- ・答えを当てられない子には、「Give up」があってもよかったか。また、ヒントを言えない場合も、日本語で言ってもOKにしてはどうだったか。
- ・中間評価の時間を設け、日本語でも言い当てた人を紹介するなど認め合う場面があるとよい。

## (2) テーマ研究

- ・ALTや支援員との授業の打ち合わせ資料を持ち寄り、3グループに分かれて効果的な授業の構成やアクティビティーについて情報交換を行った。

## (3) 指導助言（石井 むつみ 指導主事）

- ・はじめの場面では、ジャンケンや「たくさんの人と話そう」という教師の子どもの心をリラックスさせるための配慮が見られた。
- ・ゲーム1では表現を何回も繰り返す、ゲーム2ではグループでヒントを与える、ゲーム3では個で自分から話しかけていくという、明確な目的をもった活動と学習形態の工夫が見られた。
- ・本時の表現は、「What's this?」という事実を伝えるという自己表現の余地がないものであったが、それを魅力的なものに変える工夫（「効果的に既習の表現と組み合わせる」「ブラックボックスで子どもの好奇心をくすぐる」「テルミークイズで背中にカードを張って自分だけが見えないようにする」等）があった。また、次は自分たちでクイズを作るという与えられる楽しさからつくり出す喜びにつながるようにも工夫されている。
- ・「What's this?」という表現を使わせるための場面設定を工夫したい。「これは何?」と聞くためには、それに合った場面設定が必要となる。
- ・ねらいに照らし合わせた振り返り（自己評価）をさせたい。何を視点に書いたらよいか指示をする。本時は「What's this?」を使って協力してヒントを出し合いながらたずねたり、答えたりしよう。」としたら、もっと次へつながる意識ができる。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・本時の表現を繰り返し話す場を確保するためにために、活動や形態の工夫がたくさんあった。そのことにより、子どもたちが楽しみながら、自信をもって活動し、満足感を得られることができた。
- ・既習の表現を新しい表現と組み合わせて活動させたことで、子どもたちにとってより魅力的な活動になっていた。

### (2) 課題

- ・活動させる際には、どんな意味やねらいがあるのか、教師側だけがもっているのではなく、子どもたちにもしっかりと伝えたい。それが、より内容の濃い活動につながると思われる。